

「私は喜んで歳をとろう」 高齢者顕彰記念礼拝 2021 10 3

奏楽 清水悦子 近藤信子

前奏 「主よ、人の望みの喜びを」 清水・近藤

開会賛美 聖歌 292番 「今日まで守られ」

開会祈禱

主の祈り

説教 「私は喜んで歳をとろう」 高齢者顕彰記念礼拝

おはようございます。3か月前に野武元長老からこの本をいただきました。表題は「私は喜んで歳を取りたい」ですが、ドイツ語の意味は、「喜んで歳を取る」という決意だそうです。全部を朗読したいのですが、要約して紹介します。ドイツ人老牧師の力強い信仰の言葉をお聴きください。

「私は喜んで歳をとろう」

自分が年を取ったのは紛れもない。

力は衰え、記憶は不確かになり、病気や痛みが増す。

親はもういない、友も少なくなった、老人は少しずつ孤独になるのだ。

それも良い、神は交わりを深めようと、私にわざと孤独を賜るのだ。

ならば日々主イエスと語り合い、私は喜んで歳をとろう。

私は秋、木の葉が落ちるのを見るのが好きだ。

その後には、やがて雪の下から新しい芽が出るだろう。

人生の秋は、新しい命につながるのだ。

今私は、人生の4番目の季節を生きているのだ。

季節の色を楽しみながら、私は喜んで歳をとろう。

神を信じるとは、暗がりの先に確かな光を見ること、

静寂の中に、細い確かな御声を聴くことだ。

やがての時、私には聞こえてくることだろう。

永遠に美しい別の世界の音楽が。

天の音色を夢見つつ、いざ私は喜んで歳を取ろう。

私は、もう一度若くなりたいとは思わない。

神と共に歩んだ人生を喜び感謝しているから。

さらにこの道はまだ先に続いているのだから。

神が私を新しい世界に招き入れようとしておられる。

未知の船出に備えつつ、さあ、私は喜んで歳を取ろう。

この平安な詩を聴いて、作者はよっぽど波風のない人生を送った人だと想像するでしょうか。いいえ、作者のイェルク・ツインクは、実は 3 歳で母を亡くし、4 歳で父を亡くし、厳しい幼少時代を過ごしました。第 2 次世界大戦ではドイツ軍に従軍し、彼の属した部隊 400 人のうち、生き残ったのはわずか 3 名、彼はそのうちの一人でした。6 年間の戦争が終わり、捕虜収容所から出た 23 歳の彼には、帰るべき故郷も人生の生きがいも無く、あるのはただ虚しさだけでした。

そんな中で、彼はどんな人も優しく招く神と、暖かく迎え入れる教会に救いを見出したのです。クリスチャンに成り、それから牧師に成り、本やテレビの宗教番組を通して、ドイツ国民に語り掛け、大変親われたそうです。この本が出版された翌年、2016 年の 9 月に 94 年の生涯を閉じました。深く根を張った老木のようなドイツ人牧師の最後の言葉に、優しくでも強く背中を押されます。「そうだ私もこのように喜んで歳をとろう」と。それが子や孫たちに美しい思い出を残し、若者に応援エール備えることだと思っからです。

これは私だけでなく、土浦めぐみ教会の高齢信仰者の方々の決意だと思います。みなさんこのような生き生きとした高齢期、美しい晩年を生きようと決意しておられると思います。例えば喜楽希楽会では毎回このように歌います。

神よ あなたは（喜楽希楽会テーマソング）

神よ、あなたは若い頃から、私の力、年老いて、白髪なるとも、私の望み。

神よ、私は年老いてなお実を实らせて、生き生きと主の大庭で生い茂ります。

神よ、私は次の世代に告げ知らせます。主の力、主の御救いと、主の麗しさ。

神よ、あなたは私の力尽き果てる時、振り向いて呼びかけられる。「あなたを背負う」

神よ、私はいのちの限り力を尽くし、キラキラとただあなただけ褒めたたえます。

洪先生から 2021 年の高齢者顕彰記念礼拝で、説教を依頼されましたので、今朝、ここに立っています。もうすでに始めました。第 1 のポイントは、高齢信仰者は生き生きと生きようと決意しています、でした。第 2 のポイントは、めぐみ教会のみなさん、高齢者が生き生きと生きるのを助けてください、です。

めぐみ教会は 20 年以上前に、『めぐみ教会の福祉理念』を作りました。

1、めぐみ教会は、高齢者の一人一人が信仰者として、出来得る限り最後まで、礼拝の生活を可能にするために励みます。

2、めぐみ教会は、高齢者の一人一人が、神の家族の一員として、いちじるしい孤独にならないように、極度のさびしい最後を遂げることが無いように奉仕します。

3、めぐみ教会は、高齢者あるいは身体的障害があっても、その不便を越えて教会生活が可能になるように、一人一人が相応しい奉仕に携われるように努力します。

これがめぐみ教会全体の決意でした。この理念の実現のためなら何でもしようと、

デイサービス・キラキラサービスが始まりました。

その開所式では、次のような『高齢者に寄り添う姿勢』を公にしました。

1、高齢者の御一人一人は、神様によって生かされ、愛されています。それゆえに、私たちは、お一人お一人が、掛け替えの無い人格であることを告白し、その1日1日が、貴重で豊かな日々になるために、奉仕します。

2、高齢者のお一人お一人は、神様に長く生かされて来た方々で、人生の宝を持っておられます。それゆえに私たちは、お一人お一人に寄り添い、交わり、学び、私たち自身が、豊かにされることを願います。

これは高齢者と歩む私たち土浦めぐみ教会の姿勢です。また私たちの祈りでもあるでしょう。それから高齢者一人ひとりを大切にするキラキラサービスは充実し、18年も経ちました。次に子供たち一人ひとりを大切にする「森の学園」が始まり、そしてさらにどんな障害があっても不便を超えて、当たり前のように一緒に生きて行く、共生コミュニティを創っていこうと、「からしだね」が始まりました。これからも一人を大切にするこの実践の努力を続けましょう。

またマナ愛児園を含めた4事業の中で、一人ひとりを生かそうとする尊い神の業に従事している職員とボランティアに感謝を表し、また助け励ましましょう。

今日の高齢者を顕彰する礼拝とは、高齢者だけでなく、障害のある無しに関わらず、一人ひとりを最大限に大切にしようと、決意する日にしたいですね。

3 第3のポイントは、引退牧師の喜びの告白、そして若者への勧めとエールです。

私は2年前主任牧師を辞して、現在は、毎日朝夕、ネタローと一緒に散歩を楽しんでいます。それは祈りの時であり、過去を振り返る時でもあります。クリスチャンに成った時から、神学校時代、愛知県時代、インドネシア時代、留学時代、そしてめぐみ教会の30年、出会った素晴らしい人たち、神様の絶妙な御業が浮かんで来るのです。そんな自らの一生を思い返すと、神様への感射が湧き上がって来るのです。そしてついつい歌うのです。英語で歌いますので、翻訳(赤文字)をpptで出してください。

Since I started for the Kingdom, since my life He controls,

Since I gave my heart to Jesus, the longer I serve Him, the sweeter He grows.

The longer I serve Him, the sweeter He grows.

The more that I love Him, more love He bestows.

Each day is like heaven, my heart overflows.

The longer I serve Him, the sweeter He grows.

ただ神の国のために生きるようになってから、

主が私の人生を導くようになってから、

この心を主に献げた時から、

主に仕えれば仕えるほど、主は麗しくなりました。

主に献げれば献げるほど、主は私を祝福してくれました。

主と歩む日々は御国の如く、喜びが湧き上がりました。

主に仕えれば仕えるほど、主は麗しくなりました。

主に仕えれば仕えるほど、主は私にとって、麗しくなるのです、本当にこの感謝が泉のように湧き上がって来るのです。神様に信頼して歩む人生とは何と幸いなことでしょうか。

### 老い行けよ、我と共に

もう一人の老詩人の詩を紹介します。19世紀の英国の詩人、ロバート・ブラウニングは、信仰による人生を高らかに詠った詩人です。彼は12世紀のユダヤ人思想家ベン・エズラの思想を紹介しながら『ラビ・ベン・エズラ』を書きました。この詩は1連 7 行の詩が32連も続く遠大な信仰大作です。著者には大変失礼なのですが、今朝のテーマに関連ある4連だけを紹介します。

第1連 老いゆけよ、我と共に！

最善はこれからだ。

人生の最後、そのために最初も造られたのだ。

われらの時は、聖手の中にあり。

神言い給う。『全てを私が計画した。

青年はただその半ばを示すのみ。

神に委ねよ。全てを見よ、しかして恐れるな！』と。

私と一緒に、神を信じて年を重ねよう。生涯の最良の日は、人生の夕暮れ時にあるのだ。長生きすれば、悲しみや恥、寂しさや嘆きも積もる。しかしうつむくな、頭を挙げよ！最善はこれからだ。最後の最善のために、我らは創られたのだ。我らの時は神の御手にある。神は言われる『私が計画した』と。神の創られた最善が待っている。素晴らしいかな、熟年、老い行けよ、我とともに。

次に第29連を紹介しましょう。その29連の前提は聖書です。

エレミヤ書18:4-6 『陶器師は、粘土で制作中の器を自分の手でこわし、再びそれを陶器師自身の気に入ったほかの器に作り替えた。それから、私に次のような主のことばがあった。『イスラエルの家よ。この陶器師のように、わたしがあなたがたにすることができないだろうか。・・主の御告げ。・・見よ。粘土が陶器師の手の中にあるように、イスラエルの家よ、あなたがたも、わたしの手の中にある。』

人生は陶器師に練られる轆轤上(ロクロ)の土塊に喩えられています。この聖句を土台に、ロバート・ブラウニングは、人生を次のように詠みます。

29連 たとえ、底辺には 当初の文様が

微笑む愛を刻みゆきて  
もはや途切れず、印さずとも 何であろう？  
たとえ、なんじの縁のまわりに  
すごい様子で、醜いどくろの形が次々と顕われて  
さらに厳肅な気分で  
峻刻に彫り込まれるにまかすとも 何であろう？

地上の人間は轆轤上の土塊、人生の喜びは微笑みの文様となり、人生の辛酸は、醜いどくろの文様になる。神は轆轤上で土塊を練り上げる如く、人生の苦しみや喜びを通して、人の魂を練り聖めるだ。人は自分の素地の悪さを嘆こととは無い。今、神が私を練りきよめておられるのだ。素晴らしいかな、神の手にある熟年。

やがてすべての人が、人生の終焉を迎える。神の前にひたすらに生きた者にとって、それは悲しみの時ではなく、最善の時、最高の時なのだ。死は人生の最後ではない、この世限りだと思うが故に、人は煩悶し、焦り、嘆息する。しかしこの世は来世のための準備の場所である。私たちはいのちの終わりのためではなく、このいのちの完成のために、死を喜ぶのだ。永遠に生きるために死を迎えるのだ。

そしてロバート・ブラウニングは静かにしかし驚きの光栄な喜びを語るのです。

30連 地上ではなく、天上を仰ぎ見よ  
天宴の盃を想い見よ  
饗宴の筵(むしろ)に、ランプは輝き、ラッパは響く  
新しい酒 泡立ち溢れ  
飲みほさんと、主の唇は映える  
天の完き杯よ、汝今 救い主の盃と成る  
いかで、汝に地上の轆轤が要ろうか？

我らは煉りに煉られて、やがて人生と言う轆轤から取り外されて、天上に向かう。そこには天上の宴(うたげ)がある。そして轆轤で煉られた我らの魂は、天の饗宴で用いられる盃になるのだ。しかも何と！主イエスの喜びを盛る聖なる盃と成る。そして救い主は、その盃に口づけして、完全な御業を飲み干すのだ。何という光栄！何という喜び！ 光栄かな、キリストにある熟年。我らは救い主の完璧な杯になるのだ。

最後に信仰者は、この天上の希望の故に祈るのです。

32連 されば、貴神(なんじ)の作品を取りて 用い給え、  
修正成したまえ、潜める瑕疵(かし 傷)を、  
素地の無理を、御意図をこえたひずみを！  
我が時は、貴神(なんじ)の御手にあり！  
御計画の如く 杯を完成なし給え！

老年をして 若き年を肯定せしめ  
死をして老年を完成せしめよ！

主よ、やがて私は、救い主イエスの用いる聖なる杯になる、この驚くべき栄誉を覚えればこそ、私はあなた様の前にひたすらに真実に歩きました。降りかかる困難に耐え、八方ふさがりの状態でも絶望せずに、自暴自棄にならずに出来ました。年老いた今、過ぎし若き日を振り返って、微笑みながら告白します。『老年をして 若き年を肯定せしめよ。』

若き年を肯定するとは、過去の歩みを喜んで承認するという意味です。老いて自分の青春を振り返り、過ち失敗は多く在ったが、それでも自分の若き日に選んだ人生の方向や必死の努力は良かったと肯定し受け入れるのです。

例えば私です。聖書を読んで、この神様を信じた時、主イエスにあなたを私の人生の主としますと約束した時、インドネシアで日本人は残虐だと叫ばれて、この歴史的負い目を償おうと宣教師に成ったこと、偉大なめぐみ教会に招かれて、志を共にする仲間たちと、ひたすらに働いたこと、そんな自分の過去を喜んで肯定出来るのです。何と幸いな者でしょうかね。

『老年をして 若き年を肯定せしめよ。』これはまた、若者に対する強烈な忠告とエールでもあるでしょう。若者よ！心して歩め、老いて己が青春を振り返る時、ただ悔いと恥辱にまみえることの無いように。若者よ、心して歩め、恐れることは無い。完全な陶器師に信頼せよ。

死をして老年を完成せしめよ！これは詩人だけでなく、私たちみんなの祈りでしょう。私たちは行き詰まりの暗い終わりに向っているのではなく、輝かしい完成に向っているのだ。主よ、最後の仕上げをしてください、と。

### 祈りの園を

実は散歩中に、もう一曲歌うのです。みなさんご存知の「祈りの園を」です。歌っているうちに、感謝が溢れて来て替え歌になってしまいました。勝手に歌います。

- 1, 祈りの園生を、朝とくわれ歩み、御子イエスと物語る幸をば得たり、  
わが主は我と歩み、ささやき給いぬ、「永久までも汝は我のものぞ」と
- 2, 卑しき僕に、かくまで愛を持って、生かし給うみめぐみは、何にか譬えん、  
我わが救い主を、ひたすらに讃美す、「永久までも君は我のすべて」と。
- 3, 祈りの園に、夜は訪るれど、思い出ず、主の守り、奇しき御業を、  
わが主は我と語り、ささやき給いぬ、「永久までも汝は我の喜び」 アーメン

主イエスが「お前は私の喜び」と言ってくださる、私は本気でそう信じています。神様を信じた時から、神様と契約した時から今まで、私は神様の御心に反すること、神

様の喜ばないことを選んだことが無いからです。それは自分の人生に、失敗や判断の誤りや誰かに謝罪しなければならないことが無かったという意味ではありません。

正確に言います。私は自分の願望と神様の御心が対立した時に、自分の願望を選んだことは無い、という意味です。みなさんもそうでしょうか？御心に反することを知りながら、それを選ぶなんてことはしないですよ？むしろ、みなさんは、神様に喜んでもらえればと思い、聖書を読み、祈り、人を愛し、そして教会で奉仕していますよね。

私もいつも神様の御心を探って、それに従って来たなーと振り返るのです。自分の願望が神様の御心と対立して、葛藤し苦しみ悶えたなんてことは、覚えがありません。第一、神の御心に反する自分の願望、そんなだいそれた願望なんて恐れ多くて、とんでもありません。だって私が契約したのは、十字架上で身代わりになってくれた主イエス様です。私が信じたのは、創造者で慈しみ深い父なる神様です。その神様が望むなら、無条件で自分の願望を捨てて、御期待に応えようとするのは当然でした。それが出来る、私にとってそれこそ喜びでした。それで、主イエスが**永久までも汝は我のものぞ、永久までも汝は我れの喜び**、そう囁いてくれると本気で信じて、静かに喜んでいるのです。

結論です。高齢クリスチャンのみなさん、**老い行けよ 我と共に、最善はこれからだ**。これからも一緒に喜んで歳を取りましょう。

私たちより若いみなさんへのエールです。**若者よ、心して歩め、恐れることは無い。完璧な陶器師に信頼せよ**。祈りましょう。

祈 禱 BGM「成したまえ」 清水・近藤)

**父なる神様**、年を重ねて、この肉体の弱さを自覚すると、気弱になってしまいます。しかし今日、老いを熟年と呼び、雄々しく歩む多くの仲間たちと共に、礼拝を奉げています。彼らみんなが、年老いてなお実を实らせて、生き生きと生い茂り、あなたの恵みを次の世代に告げ知らせようとしています。

**いのちの創造者なる神様**、キリストにあって肉体の死が何でしょう。いのちの創造者であるあなたの御手の中に帰るだけです。創造者の御手の中に在る我ら信仰者は、何と幸いなことでしょう。我ら、神から発し、神によってなり、神に至るのですから。

**陶器師なる神様**、私たちは土の塊に過ぎません。そして陶器師であるあなたは、人生という轆轤の上で、わたしの魂を練り聖めてくださいます。しかもあなた様は完璧な陶器師で、あなた様に失敗はありません。だからあなた様に期待しつつ、我が内で為されるあなた様の美しい御業の完成を待ち望みます。今や地上の日々もわずかです、神様、この身に最後の仕上げをなして下さい。主イエス・キリストの御名前によって祈ります。アーメン

それでは最後に、みんなで私たちの祈りと喜びを告白して歌いましょう。起立して、マスク着用のまま小声で、でもはっきりと歌いましょう。

会衆讃美 聖歌295番 新聖歌394番 『成し給え 汝が旨』

『成し給え 汝が旨、陶匠(すえつくり)我が主よ』と歌いました。これからも歌いつつ歩んでいきましょう。

紹介と報告 洪先生

頌 栄 2021 テーマソング

祝 禱 エレミヤ書18:4-6 見よ。粘土が陶器師の手の中にあるように、あなたがたも、わたしの手の中にある。主イエス・キリストの御救いの恵み、父なる神の優しい御配慮、聖霊なる神の親しい励ましが、今朝、御言葉を聴いて歩む、すべての聖徒たちの上に、豊かに限りなくありますように。アーメン。

後 奏 「御手の中で」、 清水・近藤